

2012年 4月 20日

各 位

 株式会社ジェイ・エム・エス
 代表取締役社長 奥窪 宏章
 (コード番号 7702 東証第1部)

新発売 半固形状栄養材注入システム「ジェイフィード ペグアシスタ®」

様々な形態の半固形状栄養材の投与が可能
 患者さんの「食」への喜びの増加と、家族の方々の負担軽減に貢献します

株式会社ジェイ・エム・エス(本社:広島県広島市、代表取締役社長 奥窪宏章、以下「ジェイ・エム・エス」)は、粘度の高い半固形状栄養材でも簡単に患者さんへ投与できる手動式の経腸栄養※システム機器、「ジェイフィード ペグアシスタ®」を開発、4月23日から販売開始します。

※経腸栄養: 経口摂取が不可能あるいは困難な患者さんに対して水分や栄養材などを投与するため、鼻腔や口腔から挿入した細い管もしくは、胃ろうカテーテル(PEG/ペグと呼ばれる経皮内視鏡的な手術により腹部に小さな穴を開けて胃へ挿入された管)を通して、胃や腸などの消化器官へ栄養材を投与すること。

患者さんの胃や腸へ投与される栄養材には成分のほか形態(液体/半固形)などに違いがあり、また、半固形状のものにも粘度が低いもの(柔らかいもの)から粘度が高いもの(固めのもの)まで様々な種類が用意され、患者さんの状態や投与される環境などにより使い分けられています。

従来、咀嚼嚥下(そしゃくえんげ:噛み砕いて飲み込むこと)した食べ物に近い、粘度の高い栄養材を患者さんへ胃ろうカテーテルを介して投与する際には、注入器と呼ばれる注射器に似た機器を用いたり、栄養材の入ったバッグを手や器具で押したりすることにより栄養材を押し出して投与していました。しかし、粘度の高い栄養材を注入器などで押し出す際には強い力が必要でした。

ジェイフィード ペグアシスタ® は、栄養材を投与するチューブをセットしハンドルを回転させることで、粘度が高い栄養材でも簡単に投与が可能となる医療機器です。また、チューブ内に過剰な圧力がかかると栄養材が注入できなくなるよう自動的に圧力を逃す安全機構を備えています。



【特長】

- ・ハンドルを手動で回転させることにより、高粘度の栄養材でも簡単に投与可能。また、電力を使わないため電源がない場所でも使用可能。
- ・チューブ内圧力が高まると安全機構が働き、チューブ内圧の上昇を防止。
- ・ハンドルを逆回転させても回転軸自体が空回りし、逆流を防止。
- ・栄養ボトルの中のボトルフロート※が、粘度の高い栄養材を吸引する際に妨げとなる、ボトルの底中央に発生する穴を防止。

※落し蓋のように栄養材の液面に浮かべるプラスチック製のパーツ

(右下)ジェイフィード ペグアシスタ® 本体
 (左上)ジェイフィード ペグアシスタ® 専用栄養セット

半固形状栄養材のなかには、通常の食事をミキサーで細かくし食べやすくした「ミキサー食(ブレンダー食)」と呼ばれるものがあります。ミキサー食は従来の食事に近く、嗅覚・視覚的な刺激により消化運動も生理的に活性化されるため、患者さんの心理的効果やQOL(Quality of Life: 生活の質)を高めることができると言われています。しかし、使用されている食材や調理方法などにより、でき上がったミキサー食の形態が異なります。ジェイフィード ペグアシスタ[®]を使用することで、より簡便に患者さんへミキサー食を投与できることから、家族と同じ食事を摂ることができるという、患者さんの「食」に対する喜びが増すとともに、家族の一員としての絆を深めることができます。また、食事が同じで済むことから、食事の準備の時間的・経済的負担の軽減に役立つことが期待できます。

【製品情報】

販売名:	ジェイフィード ペグアシスタ	ジェイフィード ペグアシスタ専用栄養セット
医療機器届出番号:	34B1X00001000077	34B1X00001000078

【販売計画】

販売開始: 2012年4月23日
販売目標: 約10億円* (発売後、3年間の合計)
*ジェイフィード ペグアシスタ[®] 本体及び関連製品

【ご参考】

開発コンセプト:

ジェイフィード ペグアシスタ[®] のデザインは、安全で使いやすいことはもちろんのこと、形や大きさは「お弁当箱」をイメージしています。患者さんや、家族など介助者の方々が使用する際にお弁当箱をイメージしていただき、患者さんの「食」が少しでも楽しくなり、また、栄養状態が良くなりますようにという思いが込められています。

ジェイ・エム・エスは、これからも「感染・医療事故の防止」、「医療の効率化と患者さまQOLの向上」、「再生医療」の3つをキーワードに、一人ひとりの患者さまをみつめ、医療従事者の皆さまの立場にたつて、安全・安心で品質の高い製品とサービスを提供し社会に貢献してまいります。

以上

問い合わせ先: 広島本社 経営企画部
TEL 082-243-9059 / FAX 082-243-5997

本リリースに掲載されている将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、社会情勢の大きな変化などさまざまな潜在的リスクや不確実性が含まれております。当情報につきましては発行日時点のものであり将来的に変更される可能性のあることをご承知おき下さい。